

# センター便り

江戸川区口腔保健センター

Newsletter

〒134-0013 東京都江戸川区江戸川5-14-4 Tel/03-5667-8020 Fax/03-5667-8022



## ご挨拶

### 口腔保健センター実施委員会委員長 金栗勝仁

日頃より、口腔保健センターの運営にご理解、ご協力いただきありがとうございます。昨年度より始めました新補助金制度も2年目が経過しようとしています。会員の先生方、センタースタッフのご協力により、患者数は昨年度と同様年間4000名弱となる予定で順調に推移しております。新補助金制度は、診療報酬の一部を歯科医師会で有効活用してくださいという制度です。治療が困難な障害を持った方や、全身管理が必要な高齢者の患者様のご紹介を今後とも宜しくお願い致します。一方、治療が終わり定期健診に移行した患者様の逆紹介も進めておりますので、その際は宜しくお願い致します。

センターでは摂食嚥下指導を月2回、施設訪問摂食嚥

下指導を月1回行っていますが、今年度摂食嚥下指導の検査機器としてVE(内視鏡検査)を導入致しました。今後以前から導入しているCTも含め、有効活用を考えております。区民のため、会員のため、センター事業を発展させるために運営実施委員会一同より一層努力してまいりますので、今後ともご協力の程宜しくお願い致します。

2月にセンター見学会を行い8名の先生方に来ていただきました。協力医になって頂ける先生も随時募集しております。また、センターに関するご意見、ご要望ございましたら是非、当委員会までご連絡宜しくお願い致します。

## 日本障害者歯科学会 第35回学術大会 報告

### 口腔保健センター協力医 柵山泰昭

第35回日本障害者歯科学会学術大会が平成30年11月16日(金)から11月18日(日)の三日間東京都中野の中野サンプラザにて「住み慣れた街から広げよう支援の輪」というメインテーマサブタイトル多職種連携における障害者歯科の役割で開催されました。本会からは会員及び口腔保健センタースタッフあわせて20名で参加してきました。

今年は11月中旬とは思えない温かさの中大会の参加者も約3000名ということでした。参加者一同充実した勉強の機会とさせていただきました。

今回は、本会から前年に引き続きポスターセッションとして福田喜則会員が代表して発表を行いました。前年と異なる発表形式で、発表、質疑応答あわせて7



通りです。

分で座長が進行する以前行われた形式に戻されました。やはり、座長が進行する形式は緊張感が伝わってきます。

福田会員の発表の概要は以下の

「某歯科医師会が主催した口腔ケアに関する研修会参加者の意識調査」

○福田喜則・今井昭彦・外園智唯・金栗勝仁・清水畑倫子・田村純二・田村朗・

古川隆彦・末吉正幸・長嶋和浩・柵山泰昭・竹内陽平・滝田和弘・川野浩一・齋藤祐一

という演題で発表を行いました。他教育講演などダウン症候群に関する講演が6題と多く、摂食嚥下周術期、終末期などの口腔管理と歯科だけでなく多職種連携がキーワードとなってきております。

学会後の懇親会は会場が新大久保に近い韓国家庭料理のお店で行われました。基本的に辛さが立つ料理でしたが、人気店で特に生マッコリの甘さと程よく合う料理でした。

次回第36回大会は2019年(元号未定のため)11月22日(金)から11月24日(日)の日程で22日じゅうろくプラザ23日24日は長良川国際会議場・岐阜都ホテルで行われる予定です。



## 口腔ケアサポーター養成アドバンス講演会 報告

### 口腔保健センター協力医 清水畑倫子

本年度講演会は、平成31年2月7日(木)タワーホール船堀小ホールにて、東京湾岸リハビリテーション病院院長の近藤 国嗣先生に摂食嚥下リハビリテーションに携わる医師の立場から、「摂食嚥下リハビリテーションの基礎と実際」と題してご講演をいただきました。



先生は、東海大学医学部をご卒業後、慶応義塾大学医学部リハビリテーション科に進まれ、東京都リハビリテーション病院での勤務等、ま

さに摂食嚥下リハビリテーションの創設から関わり発展させていかれた方です。近藤先生にお目にかかったのは、東京都立心身障害者口腔保健センター開催の摂食嚥下研修会でご講演を聴講した際でした。講演では、摂食嚥下障害の基礎的なお話をご自身が検者になって実証したVF像を見せながら説明してくださったり、参加者自身で試してみる実習を交えたりと、大変分かり易く楽しく拝聴しました。内容も摂食嚥下リハビリテーションの基礎項目を隅から隅までを掻い摘んでやさしくわかりやすくご講演され、大変感動致しました。

そこで江戸川区でのご講演をお願いし今回の運びとなりました。ご講演内容は、江戸川区歯科医師会広報

に掲載の通りです。本当に期待通りのご講演で、参加者から絶賛や喜びの声が寄せられ嬉しい限りでした。出展企業もご紹介いただき、内から4社出展依頼し、多くのサンプルも持参していただきまして、賑わいを添えました。

このような講演会を行うに当たっては、センターに携わる多くの先生方やスタッフの尽力が欠かせません。開催年数を重ね皆ベテランとは言え、迅速に手際よく運べ、大成功を収められるのも多くのこういった影の力のお蔭で、素晴らしい会を提供できております。本当に感謝申し上げます。

センターの仕事は大変と思われるかもしれませんが、その分得るものも大きいと私は感じています。皆で協力し合い、多くの力と知恵で物事をこなしていくのは、自分の人生においても何らかの糧になっていくものと思います。

障害者の歯科治療は、まずは口腔ケアを、そしてやはり低栄養予防のための基礎づくり、タンパク質をとれるような口腔内構築。



さあ、まさに“80歳でお肉を食べよう”“8029”運動の推進と参りましょう！

## 退任のご挨拶

### 口腔保健センター事務長 鈴木恵美子



この度、3月31日をもって事務長を退任することになりました。

齋藤会長、川野副会長、今井理事、金栗委員長をはじめとする運営実施委員会の先生方そして指導医・協力医の先生方にはいろいろとご指導を賜りありがとうございました。また、外園診療室長、スタッフの皆様には温かく接していただき感謝いたしております。歯科医師会役員・会員の先生方、田中会計担当理事、岡本連盟会長・先生方、瀬谷事務長にも大変お世話になりました。

平成24年1月に事務長に就任後、江戸川区口腔保健センターを取り巻く情勢は大きく変化いたしました。平成29年度から施行の新補助金制度は、口腔保健センター始まって以来の改革で補助対象外経費が設けられたことにより江戸川区口腔保健センターの独自施策が実施可能となりました。この改革は、江戸川区長様のご英断、健康部長、健康部の皆様のご理解と齋

藤会長をはじめとする多くの先生方の熱意によるものと思います。全国に先駆けて行われた口腔がんの集団健診、摂食嚥下認定士研修会の実施による“摂食嚥下認定士”の誕生はその大きな成果の一つと言えます。VE(鼻咽喉ファイバースコープ)や介護リフトも導入され、先生方・スタッフの働きやすい環境づくりの一助となり嬉しく思っております。

事務長として先生方・スタッフの皆様と係る中で、患者様の口腔ケアの向上を目指し一丸となって取り組む診療・受付対応、様々な学会でのご発表、口腔ケアの重要性を広く地域に発信していく研修会・講演会の実施など常に前向きで熱心な取り組みに心打たれてきました。

今後の江戸川区口腔保健センターの益々のご発展と先生方・スタッフの皆様のご活躍を心よりお祈りいたしております。大変お世話になりました。ありがとうございました。